

5. メコン5カ国における消化器疾患早期診断・治療に関する技術移転事業

国立大学法人 名古屋大学

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

H27年度に本事業を実施した結果、①継続的な医師育成が必要、②消化器疾患の技術移転ニーズが高い、③がん診断に加え、治療分野の技術移転ニーズが高い、④他国からも技術移転要請がある、事が確認できた。今後、本ニーズを解決する必要がある。

【活動内容】

H27年度に引き続き名古屋大学及び名古屋大学関連病院の医療従事者がタイ（NCI、マヒドン大学シリラート病院、ラジャピティー病院等）、ラオス（マホソット病院）、カンボジア（カルメット病院）に赴き、消化器疾患の診断方法に加えて、日本が世界をリードしている内視鏡を用いた治療分野の技術移転を行う。タイでの研修時にはベトナム、ミャンマーの医師を招聘し、メコン5カ国全体での技術移転促進を狙う。

【期待される成果や波及効果等】

適正で正確ながん診断技術を備えた医師がメコンエリアで育成される事で、消化器疾患の診断レベル及び低侵襲な治療技術の向上が期待できる。本事業がメコン5カ国へ展開され、消化器疾患の診断・治療技術の普及が期待できる。

<実施概要> (2016年5月計画)

6月 専門家派遣 (タイ9名)

- ・トレーニングによる各種がん診断・治療の技術移転

7月 専門家派遣 (カンボジア5名)

- ・トレーニングによる各種がん診断の技術移転

9月 専門家派遣 (ラオス5名)

- ・トレーニングによる各種がん診断の技術移転

10月 専門家派遣 (タイ13名)

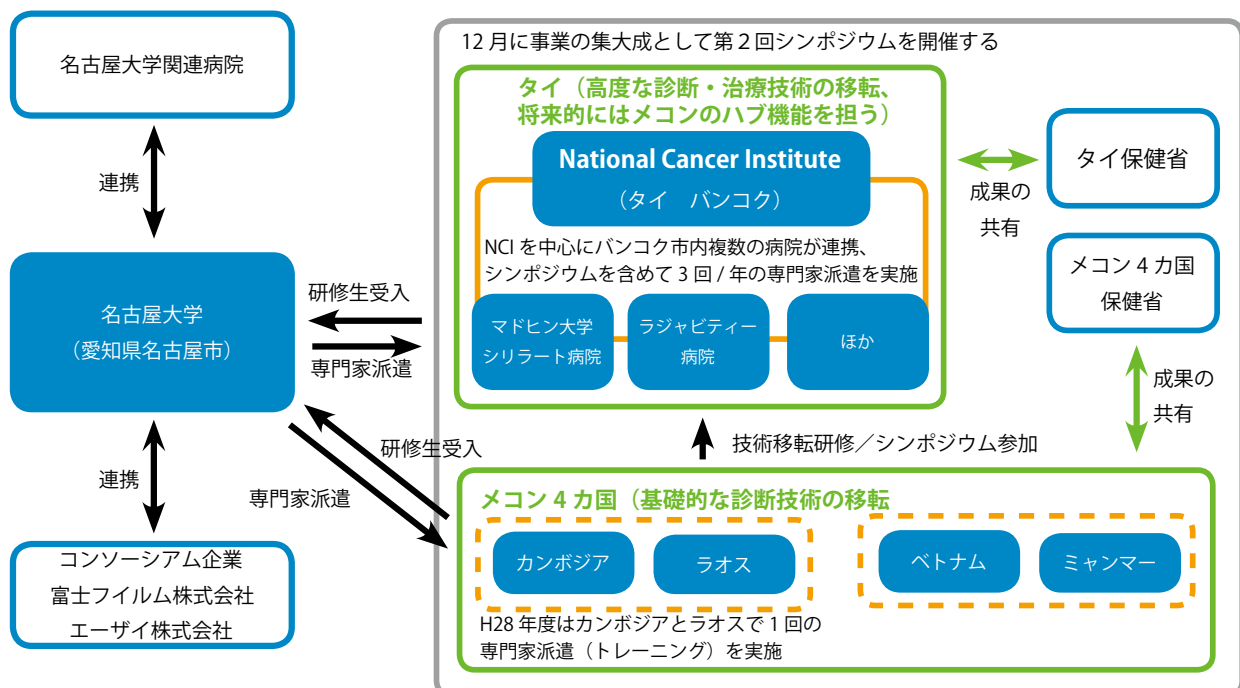
- ・トレーニングによる各種がん診断・治療の技術移転

11月 研修受入 (2名)

- ・症例見学による早期がん診断・治療技術の研修

12月 シンポジウム開催 (タイ7名)

- ・シンポジウム開催



メコン5カ国における消化器疾患早期診断・治療に関する技術移転事業について報告させていただきます。私どもは27年度から実施させていただきまして、その結果から診断だけではなく治療も重要だと認識し、この地域で治療を向上させたい、技術支援したいと考えました。また、このプロジェクトにおいて1月11～12日にASEAN会議を実施させていただきまして、ラオスから3人、ミャンマーから3人、カンボジアから1人、ベトナムから3人、そしてインドネシアから2人と、色々な国の方に参加していただきました。タイだけでなくメコン、あるいはその周辺地域の医療を向上させたいという思いで、今年度の事業を実施させていただきました。

タイはNCI (National Cancer Institute: 国立がんセンター) だけだったのですが、マヒドン大学のシリラート病院、ラジャビティ病院、バンコク病院等にも行きまして、メコン4カ国を対象にしております。4カ国での治療の向上を図るため、名古屋大学と関連病院、そしてコンソーシアム企業である富士フイルム社、エーザイ社が協力して今回のプロジェクトを実行させていただいた次第です。

事業の成果①- 現地での研修/タイバンコク

- 2016年6月、タイバンコクでNational Cancer Institute (NCI)、マヒドン大学シリラート病院、ラジャビティ病院の幹部とキックオフミーティングを実施した。①名古屋大学に医師2名を研修受け入れする事、②NCIに加えマヒドン大学シリラート病院でも現地研修を行う事で合意した。
- 医師7名、看護師2名をNCIへ派遣し、現地医師・看護師17名に対し、早期がん診断・治療に関する講義、現地医師を主権者にしたトレーニングを行った。また、看護師ミーティングを行い、洗浄方法、デバイスなどの機材管理、患者対応等の意見交換を行うと共に、チーム医療の重要性を理解して頂いた。



タイのバンコクを訪問しまして、NCI、マヒドン大学シリラート病院、ラジャビティ病院の幹部と相談し、今年1年の計画を立てさせていただきました。NCIでは、講演やハンズオントレーニングも実施させていただきました。行きましたのは、医師7名と看護師2名です。看護師ミーティングも開かせていただきまして、NCIの看護師さんと日本からの看護師さんで議論させていただいた次第です。若手の医療スタッフともディスカッションさせていただき、彼らがどのようなことを希望しているの分かりました。「タイの人は何を望んでいるのですか」と伺いましたところ、逆に「日本の若い医療スタッフがこのような素晴らしい技術を持っているのはなぜですか」と素朴な疑問を受けました。やはり経験を積めるからではないかということで、経験を重視することとチーム医療の重要性について意見交換を行いました。

事業の成果②- 現地での研修/タイバンコク

- 2016年10月、マヒドン大学シリラート病院へ医師8名、看護師5名を派遣し、医師32名、看護師27名 計59名を集め、名大・タイ双方の医師による早期がん診断・治療に関する講義を行い、情報の共有化が図れた。
- ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)や十二指腸鏡を使用した治療法、超音波内視鏡の活用法について実技指導、最新手技の習得が図れた。
- 看護師長他とミーティングを行い、看護師の教育、内視鏡室の安全管理について取り組み事例を紹介し、意見交換を行った。
- マヒドン大学シリラート病院とMOUを締結し、継続的な学術交流を進めていくことで合意した。



10月にはマヒドン大学シリラート病院に医師8名と看護師5名が行きました。タイ側は、医師32名と看護師27名の合計59名に来ていただきまして、盛大な会合となりました。レクチャーと6つの部屋で肝・胆・膵、大腸など各種がんの超音波内視鏡の技術トレーニングを行いました。その他に3,000人の看護師のトップである看護師長と話し合いとプレゼンをさせていただきました。マヒドン大学の方と内視鏡のトップの医師と私とで、消化器に関するMOUを結び、今後若い医師の交流を約束させていただきました。

事業の成果③- 現地での研修/カンボジア

- 2016年7月、プノンベンのカルメット病院へ医師5名を派遣、保健省長官出席の下、医師55名に対し早期がん診断・治療に関する講義、内視鏡の実技指導を実施した。現地施設の早期がん診断・治療に対する知識レベルを把握した上で、早期がん発見～治療までの一連の手技に関する技術を披露した。内視鏡診断学的重要性、超音波内視鏡診断の活用について知識向上を図ることができた。



一方、カンボジアの方はドクターが7月に参加してくれまして、カンボジアでの開催を約束したワークショップを行いました。オープニングセレモニーには事務次官も見えて、20人くらいの政府要人に来ていただきました。内視鏡の実技トレーニングを行いました。カンボジアのドクターは1年間かなり勉強されていましたが、知識はあるけれどもなかなか経験が得られないということでしたので、皆さんと一緒に経験させていただきました。超音波内視鏡というカンボジアには導入されていない新しい機器を富士フイルム社に用意していただき、初めての超音波内視鏡のデモンストラーションを行うことができました。ここで分かったことは、やはり内視鏡や止血に興味を持たれていたことです。次回も開催を約束しまして、2月にもカンボジアのカルメット病院を訪問し、同様の研修を実施しました。

事業の成果④- 現地での研修/ラオス

- 2016年9月、医師4名をビエンチャンのマホット病院、セタティラート病院へ派遣し、医師20名、看護師10名に対し、早期がん・胆膵疾病に対する診断・治療について講義と実技指導を行った。参加医師を術者にした指導を行うことで、スコープ操作が向上し、関心領域へのアプローチ技術を習得することができた。



一方ラオスですが、スライドには9月のみ記載がありますが、実際には1月と5月にも行いまして、計3回のトレーニングを実施しております。これは保健省の大臣から「ハノイの内視鏡トレーニングセンターを見たのだが、ビエンチャンでも実施してほしい」という要望が寄せられまして実施した次第です。

スライド写真のように手と手を持って指導しました。こちらの看護師さんは経験がない方でしたので、手を一緒に動かしてトレーニングしました。ビエンチャンでは、ようやく3人目の医師が誕生したということで、皆さん積極的に参加していただきました。「やりたい人はいますか」と聞くと、「やりたいです」とすぐに手を挙げてくれる感じでした。

事業の成果⑤- 日本での研修

- 2016年11月、12月NCIとマヒドン大学シリラート病院から2名の医師を名古屋大学に招聘し、食道がん、胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆道がんをはじめとしたがんの早期発見と治療に必要な内視鏡手技を学んで頂いた。
- 特にNCIからの医師は2回目の招聘となり、昨年実施した研修内容のブラッシュアップ、更なる内視鏡手技の習得ができた。



日本では、NCIとマヒドン大学シリラート病院の医師2名を呼び寄せて、1カ月間内視鏡室でがんの早期発見と治療について勉強していただきました。今年4月から1年間勉強したいということですので、今手続きに入っているところでございます。

事業の成果⑥- シンポジウム開催

- 2016年12月、バンコクにてタイ、ベトナム、ラオス、カンボジアから医師73名、看護師30名、計103名を集めたシンポジウムを開催した。
- シンポジウムでは名古屋大学・タイ双方の医師による早期がん、胆膵疾患の診断・治療に関する講義を行った。これまでのトレーニング活動の総括を行い、内視鏡を用いた消化管診断及び治療に関する基礎から最新治療法についての理解を深める事ができた。



最終的なシンポジウムを12月に開催しました。メディカルスタッフの局長や大使館の方などが来られて、今後の対策について国と国との情報共有ができました。これは余談ですが、タイの学会でもセッションが開かれ、名古屋大学から2人のスピーカーが参加しました。

事業の成果⑦- 現地での研修/ベトナム

- ベトナムに関しては、2016年9月バクマイ病院、バクザン病院へ医師8名、11月カンツー総合病院へ5名、2017年1月フエ医科薬科大学へ7名の医師を派遣しWorkshopを開催。
- 2013年～ベトナムへ医療支援に当たり、当時のがん診断レベルは未だ発展途上であったが、継続支援により、ESDができるようになり、着実に技術が移転出来た事の確認ができた。



ベトナムに関してはトレーニングセンターをバクマイ病院に作らせていただきました。今、ベトナムではサテライト病院の医療の質を向上することによってバクマイ病院の患者数を減らそうという取り組みが進められています。我々も省病院であるバクザン病院、カンツー総合病院などに行っております。今年1月には内視鏡治療を開始したフエ医科薬科大学に行き、ワークショップを開催しました。その結果、3年間にどうにかハノイとフエでESD（endoscopic submucosal dissection：内視鏡的粘膜下層剥離術）ができるようになりまして、フエの若い先生が2月に国際学会で早期がんのESDの治療について発表されました。ベトナムの学会のコメンテーターと呼ばれました。早期発見に関しても徐々に出来るようになり、早期に治療に入っています。これがベトナムの現状になります。

事業の成果⑧ -現地での研修

- ・ 2016年5月ミャンマー保健省Soe Lwin Nyein局長、医療サービス部門Dr. Myint Han局長、ヤンゴン第一総合病院 Prof.Thein Myintからミャンマーの医療水準向上の依頼を受け、下記2回に渡り、胆膵疾患、上下部消化管疾患に対する治療の講義、実技指導を実施。胆膵疾患や早期消化管に対する内視鏡治療への理解が向上した。

①2016年8月ヤンゴン総合病院

派遣医師5名、参加医療従事者 30名

②2017年1月マンダレー総合病院、サンピア総合病院

派遣医師6名、参加医療従事者 60名



ミャンマーに関しては、5月に私もネピドーに行き、保健省のSoe Lwin Nyein 局長と医療サービス部門のDr.Myint Han 局長と話ができて、ミャンマーの医療水準向上について依頼されました。8月にはヤンゴン総合病院で、1月にはマンダレー総合病院とサンピア総合病院でワークショップをさせていただきました。胆膵疾患や消化管疾患に対する治療の講義や実技指導を実施しました。

今後の課題

本事業を通して、タイをはじめとしたメコンエリアでは早期がんの診断・治療レベルの向上が継続して必要であることが課題で、そのためには

①内視鏡診断・治療に必要な実臨床に則した前処置を含めた術前準備と詳細な観察法の習得

②診断・治療技術の移転の為に体験型トレーニングの実施、による現地での指導医となる医師の育成が必要と考えられた。

本課題を解決する為には今後も本事業を継続し、日本からの医師派遣・現地医師の招聘を行い、メコンエリアでの診断医の絶対数を増やしながらか診断レベルの向上を図っていくと共に、将来のメコンエリアでの指導医となりうる医師を育成すべきとも思われた。そのためにはこれまでの医師派遣・招聘のみでなく消化器疾患の診断技術を遠隔地間で簡便に共有・教育できるようなITシステムの構築を検討していきたい。

今後も継続して日本からの医師及び看護師派遣・現地医師及び看護師の招聘を行う事で、現地の診療レベルの向上に取り組んでいきたい。

タイをはじめ、メコンエリアで活動させていただき、色々なことが分かりました。これからも向上するように継続的な支援が必要だと感じました。特に診断・治療技術に関する経験不足を解消するために、実際の手術を想定した体験型トレーニングの実施が重要だと考えております。今後も指導医の派遣や、現地医師の招聘を継続し、メコンエリアでの診断医を育成しながら診断レベルの向上を図っていく必要があります。研修事業のための訪問は国と保健省が支援していますので、非常に重要だと思っております。その一方で、指導者の派遣だけでなく、診断技術を遠隔地から教育できるようなITシステムの構築も検討していきたいと考えております。今後も各国とお互いに協力し合いながら現地の診療レベルの向上に貢献し、国民の健康の増進を図りたいと思っております。

以上です。どうもありがとうございました。